

2021年7月16日

関係各位

一般財団法人青森県バスケットボール協会
会長 田中 雅之
(公印省略)

大会主催者・チーム・選手へ新型コロナウイルス対策についてのお願い

今後の連休や夏季休暇に向けて、練習試合や大会実施について以下の点をご確認いただき、実施方法の再検討をお願いいたします。

(新型コロナウイルスについての注意喚起)

1. 人流増加、人同士のつながりが感染拡大につながっている。
2. アルファ株・デルタ株など多様な変異を重ねながら世界的感染が続いている。感染のしやすさ、強毒性については未知である。
3. 無症状者が、他者に感染させるのに十分な量のウイルスを保有しているケースがある。
4. 感染者に何らかの症状が出た場合、その症状が後遺症となり数か月間続くケースが報告されている。
5. 一般的に感染症の罹患については次の経路がある。
 - (1) 感染した人の咳やくしゃみの飛沫に含まれる病原体を吸い込む「飛沫感染」
 - (2) 乾燥して小さな粒子となって漂っている病原体を離れた場所で吸い込む「空気感染」
 - (3) タオルやドアノブ、嘔吐物などに触れた手を介して口や鼻から侵入する「接触感染」

(直近で注意が必要な期間)

1. 7月22日(木)～25日(日)の連休、その後2週間8月8日(日)過ぎまで
2. 8月8日(日)～8月15日(日)の連休とお盆休み期間、その後2週間8月22日(日)過ぎまで
3. ※青森県内では連休後の1～2週間においてクラスターが発生する傾向にある。

(本文書の目的)

1. バスケットボール活動を通じての感染拡大を最小限に抑える。
2. 練習試合・大会・リーグ戦など、役割や行動指針を統一し明確化する。
3. 1試合に関わる人数を最小限に抑える。
4. 自身の出発から帰宅までの間、自チーム・対戦相手チーム以外との接触を避ける。

(JBA ガイドラインに加えてお願いしたい事項)

1. ゲーム以外（コート外）でのマスク着用の徹底

ゲーム前後の更衣室や待機場所、また、その場所への移動などは気が緩みがちとなる。鼻出しやマスク外しが感染拡大を招くことになる。

2. ベンチでのマスク着用の徹底

交代後ベンチで呼吸を整え終わったら速やかにマスクを着用する。マスクを着用しないまま大声での指示や声援はNG。マスクをずらして声を出すこともNG。声を発する場合は必ずマスクを着用する。

3. ゲーム中、ヘッドコーチ以外は立って選手に話かけてはならない

ヘッドコーチもしくは代行のアシスタントコーチ以外の方が、立って選手に指示をすることはルールで禁止されている。コート上の選手はマスクをしていないことから相互に感染リスクが高まる。

4. 3チーム以上集まる場合のゾーニングと来場時間

(1) 対戦チーム以外が交わらないようにゾーニングを徹底した運営をする。

(2) チームの動きをシミュレーションした上で試合時間を設定する。

※ 感染リスクを低減させるためには、コート、館内の滞在人数を減らすことが有効である。

※ ゲーム間15分をとった場合、ゲーム終了後の5分を撤収専用の時間帯とするだけで、消毒とコートから待機場所への安全な移動が可能になる。次のチームも試合前の10分を有効に使うことが可能となる。

※ 完全入れ替え制を行った場合、下記のように時間設定を行うと、受付の負担軽減やチームのオンコートによるアップ時間の確保が可能となる。

① 試合開始時間を2時間おきに設定する。(1コート1日4～5ゲーム)

② 第1試合のチーム会場入りは、試合開始1時間前

③ 第2試合以降のチーム会場入りは、前ゲームの開始時間以降入場可能。

④ 第1試合のTO割り当てチームは、試合開始20分前に着席し機材チェック。

⑤ 以降のTOは試合20分前までに会場入り、前ゲームの消毒終了後、着席。

⑥ チーム・TOは試合終了後はすぐに席の消毒作業を行い待機場所に移動し退館する。

⑦ 次の試合チームは、前のチームが完全にコート外に出てからベンチを使用する。また、通路を空けチーム間接触が無いよう配慮する。

(3) ウォームアップに対するゾーニングや時間の割り当てを行う。

※ アップは激しい運動になればマスクを外すことになり、屋内で空間が確保できない場合は、屋外で行うか、ゲーム間を長めにとってゲーム前に実施することが望ましい。いかなる場合においても、チーム間の接触は最小限となるよう調整が必要である。

(4) 練習試合やリーグ戦における運営スタッフの削減

※ TO機器の連動機能やオプションボタンを活用し、標準の4人オペレーションで実施すること、コートスイーパーを両チームで行うなど、コート周辺にいる人員を削減する。